

叡啓大学 2026 年度入学者選抜（春入学）
 総合型選抜（専願枠）
 グループディスカッション

1 テーマ

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は 2015 年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、世界の国々が 2030 年の達成を目指して取り組んできた国際目標です。17 のゴール（目標）とそれに伴う 169 のターゲット（指標）が定められ、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す SDGs 達成への取り組みが各地で続けられてきました。しかし 2025 年 6 月時点でも SDGs のターゲット（指標）のうち進捗状況が順調であるのは 3 分の 1 に留まり、世界には多くの課題が残されています^{1,2}。

昨今では、ポスト SDGs 時代となる 2030 年以降の世界の開発目標についての議論も始まっています³。SDGs の多くのゴール（目標）及びターゲット（指標）は、2030 年以降も達成努力が継続されることが必要ですが、SDGs が採択された 2015 年には顕在化していなかった課題への取り組みを強化することも重要です。しかし、社会・経済における現在進行形の課題には地球規模での取り組みが不可欠であるにも関わらず、政府開発援助や国際協力事業を縮小する先進国も増えており、2030 年以降も世界が協働して達成を目指すべき国際目標の再確認や追加設定が求められます。国連の設立から 100 周年となる 2045 年に向けた「ポスト SDGs 国際目標」として取り組むべき世界的な課題を検討し、グループディスカッションで到達した結論として、世界にとって最も重要だと思う具体的な追加目標を 2 つ考え提案してください。

ポスト SDGs 国際ゴール（目標）例

1. すべての子ども（0 歳～15 歳）を幸福に

2045 年ターゲット（指標）：

- ・ 世界の子どもの 9 割以上が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする（SDG ターゲット 2.1 を発展）
- ・ ネグレクトや虐待を受ける子どもが各国で 5 % 以下になる
- ・ 世界の子どものうち戦争や紛争に巻き込まれる子どもが 2025 年と比較して半減している
- ・ 世界の全ての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする（SDG ターゲット 4.3 を発展）

2. 安心安全な宇宙をみんなに

2045 年ターゲット（指標）：

- ・ 宇宙開発（人工衛星の打ち上げ、宇宙探索のためのロケット打ち上げ、宇宙空間での様々な活動、廃棄等）に伴って新たに発生する宇宙ゴミがゼロになる
- ・ Space Surveillance Networks (SSN) により地上から追跡されている 10 cm 以上の宇宙ゴミの総数を、5 万個（2025 年比約 125% 以下）に抑える
- ・ 天文学に必要な暗く静かな夜空を保護する
- ・ 持続可能な宇宙利用がどのようなものか、誰もが情報と意識を持つようにする（SDG ターゲット 12.8 を発展）
- ・ 宇宙空間に地球上の争いを持ち込まないように、宇宙空間の平和利用、宇宙資源利用などに関する拘束力を持った世界共通のルールを策定し、全ての国がその遵守に合意する

(本文中の注釈)

1 The United Nations (2025) The Sustainable Development Goals Report 2025

<https://unstats.un.org/sdgs/report/2025/>

2 国際連合広報センター「持続可能な開発目標（SDGs）報告 2024

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/sdgs_report_2024/

3 国際連合広報センター「未来のための協定：それは何をもたらすのか」

https://www.unic.or.jp/files/PACT-FOR-THE-FUTURE-WHAT-IT-DELIVERS_J.pdf

(参考情報)

国際連合広報センター「SDGs は過去 10 年間で何百万もの人々の生活を向上させたが、前進は依然として不十分 — 国連報告書が指摘（2025 年 7 月 14 日付プレスリリース・日本語訳）」、2025 年 9 月 1 日最終閲覧

https://www.unic.or.jp/news_press/info/52396/

国際協力機構「つながる世界と日本：PART2. 共に考える未来」2025 年 9 月 1 日最終閲覧

https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/part2/

外務省「JAPAN SDGs Action Platform」、2025 年 9 月 1 日最終閲覧

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

外務省「SDG グローバル指標」、2025 年 9 月 1 日最終閲覧

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html>

国際連合広報センター「ミレニアム開発目標（MDGs）の目標とターゲット」、2025 年 9 月 1 日最終閲覧

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/global_action/mdgs/

(次ページに続く)

2 事前課題

あなたが「ポスト SDGs 国際目標」として、SDGs に追加して世界が取り組むべきと考える課題を2つ提案してください。その目標を追加すべき具体的な理由をまとめ、1人3分以内(時間厳守)で発表する資料を作成してください。発表内容には以下のポイントを必ず含めることとし、グループディスカッションでの議論を行うための情報を整理してください。

- ① SDGs のうち 2030 年までに達成が難しいと考えられている目標のうち、世界が 2045 年まで達成に向けて努力を継続すべきものはどれだと思いますか。(ある場合、複数回答可)
- ② 近年の社会・経済における地球規模での取り組みが必要な課題のうち、2030 年から 2045 年の間に世界の国々がそれぞれに、または一丸となって解決すべき課題にはどのようなものがあると考えますか。様々な課題のうちあなたが最も重要だと考える2つを、そう考える根拠とともに、提示してください。
- ③ ②で提示した課題を、2030 年から 2045 年の「ポスト SDGs 国際目標」として、テーマの項で示した例のように、達成すべき目標と指標の形で示してください。このとき、上記①で考えた継続すべき SDGs に設定されている指標を踏まえて、ポスト SDGs の指標を工夫してもかまいません。

【事前課題発表用資料の作成・発表方法】

- ・ 事前課題発表用資料は手書き、パソコンなど作成方法は問いません。また、用紙の種類やサイズ、枚数などは指定しません。
- ・ 資料や図表等を引用する場合は、必ず出典を記載してください。
- ・ 発表方法は、次のいずれかから自身の取り組みやすい方法を選んでください。
なお、作成方法や発表方法については評価に影響しません。
 - 紙面をパソコン等のカメラに向けて提示し発表する。
 - Zoom の画面共有機能を用いて発表する。

3 グループディスカッションの進め方

- ・ **試験時間は 90 分です。試験は日本語で実施します。**
- ・ ①個人発表、②グループ内での役割分担、③ディスカッション、④グループ発表の流れでグループディスカッションを行い、当日指定された時間までに、議論を終結させてください。
- ・ グループの人数は6人程度(予定)です。下記の【進め方の例】を参考に、議論の進め方や時間配分などについても、グループで決めてください。試験官は議論の進行に関与しません。
- ・ 他の人の発表の際には、各自でメモ等をしながら話を聞いてください。
- ・ 試験の最中に、資料等を参照してもかまいません。ただし、参照する資料は紙媒体で手元に準備しているものに限りません。
- ・ 試験終了 10 分前になったら、到達した結論または議論の過程について、試験官にプレゼンテーションを行ってください。全員が同じ結論に到達する必要はなく、複数の結論を含んだまとめでもかまいません。

【進め方の例】 ※時間は目安

① 個人発表（18分程度）

事前課題をグループのメンバーに発表する。

※ 発表時間は1人3分以内（時間厳守）

※ 他の人の発表の際には、他のメンバーは聞きながらメモ等を行う。

② 役割分担等（2分程度）

役割分担（司会、書記、タイムキーパー、発表者など）、議論の進め方や時間配分などについて、グループで話し合う。役割は議論の途中で交代をしても良い。

③ ディスカッション（60分程度）

個人の発表内容を踏まえ、「ポスト SDGs 国際目標」について議論し、具体的な理由とともに、グループから提案する「2つのポスト SDGs 国際目標」を決める。

（進め方のヒント）

- ・ それぞれが2つずつ掲げた具体的な目標および指標案について、様々な理由の妥当性や重要性、それらを国際目標化することの必要性や有効性、既存の国際規約との整合性等を検討する。それぞれの発表を聞き、共通点や相違点を見出したり、異なる意見から折衷（せっちゅう）案を考えたりしましょう。
- ・ グループで、特に重要だと考えて議論する点はどのようなことでしょうか。
- ・ 幾つかの異なる案を、共通する視点や切り口から一つの目標にまとめることは可能でしょうか。
- ・ グループで提案する2つの「ポスト SDGs 国際目標」に、世界の全ての国々は同意すると思われるでしょうか。
- ・ グループで提案する2つの「ポスト SDGs 国際目標」を実現したら、世界はより良い場所になるでしょうか。誰にとって、どのような形で、より良い仕組みになるか考えてみましょう。
- ・ 様々な課題の中から、2つの目標を優先的に選ぶことで、世界中の様々な人々（年齢、居住国、性別、職業、社会的地位などが異なる人々）にどのような影響や制限が発生するか考えてみましょう。特定の人々を取り残してはいないでしょうか。
- ・ グループの議論や提案、到達した結論がテーマに込んでいるかを考えてみましょう。

④ グループ発表（10分程度）

到達した結論とその理由について発表する。

※ 発表は複数人で行ってもかまわない。

※ 結論に到達できなかった場合には、議論の過程について発表しても良い。

4 グループディスカッションの注意事項

- ・ グループディスカッションで知り得た同じグループの受験者に関する情報を、他者へ伝えることは禁止します。
- ・ グループディスカッションの実施中に、受験者自身のプライバシーに関する内容を話題に挙げる場合は、受験者自身の責任において行ってください。

5 評価基準

本学は、次の基準でグループディスカッションを評価します。

評価観点	評価基準	アドミッション・ポリシー
姿勢・視野	<ul style="list-style-type: none"> 「グループディスカッションの進め方」をふまえて取り組んでいるか。 テーマを適切に理解し、特定の視点に捉われることなく様々な面からテーマについて自ら考えて、調査、検討し、より良いグループディスカッションとするための事前課題等の準備ができているか。 グループ内で出された異なる視点や情報を取り入れて、より良い案を生み出す姿勢が見られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据え、目的意識を持って学修に取り組もうとする姿勢 自ら先頭に立ち、他者を巻き込んで様々な課題に取り組もうとする姿勢
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> グループで決めた役割を適切に担っているか。役割に応じた貢献をしているか。 異なる考えや価値観に理解を示し、他者と積極的にコミュニケーションを行っているか。 他者の話をよく聴いて、議論を円滑に進めようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と積極的にコミュニケーションを行う姿勢
その他	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題や自らの意見、考えについて、見せ方や表現方法を工夫したり背景や根拠となる情報などを適切に伝えたりするなど、他の人にわかりやすく伝えることができているか。 グループディスカッションの発言の中で知識や思考力があると感じられるか。 将来大きく伸びる可能性や伸びしろを持っていることを、強く感じさせるか。または、上記の評価観点・基準以外で特筆すべき良い点があるか。 	—